



環境経営レポート

【2022年度版】



株式会社 **オークマ**

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日

【2023年6月30日発行】

I . 組織の概要①

(1) 事業所名及び代表者氏名

株式会社 オークマ 代表取締役社長 大隈 賢一郎

(2) 所在地

本社／朝倉工場	〒838-1305	福岡県朝倉市菱野1548
甘木工場	〒838-0026	福岡県朝倉市柿原567
宝珠山工場	〒838-1702	福岡県朝倉郡東峰村大字福井964

(3) 環境保全関係の責任者(担当者)及び連絡先

【環境管理責任者】	友清 基文 (総務部 部長)
	E-Mail m-tomokiyo@o-kuma.co.jp
【担当者】	日野 淳一 (品質技術部 マネージャー)
	E-Mail j-hino@o-kuma.co.jp
【連絡先】	TEL 0946(52)2800 FAX 0946(52)2804
	URL http://www.o-kuma.co.jp

I . 組織の概要②

(4) 事業の内容

住宅用木製ドア及び造作材の設計・製造

(5) 事業の規模



	全社合計	本社・朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
敷地面積	68,723m ²	22,451m ²	18,847m ²	27,425m ²
延床面積	29,110m ²	11,680m ²	6,432m ²	10,998m ²
従業員	197名	106名	42名	49名

(6) 対象範囲

全組織・全活動

Ⅱ. 環境経営方針

環境経営方針

基本理念

株式会社オークマは、「快適な暮らしと価値ある製品創り」「伝統の継承と新たな挑戦」「家族と地域に愛される会社作り」を掲げ、全従業員の環境負荷に対する意識高揚を図り、環境保全活動への取り組みを積極的に進め、持続可能な社会実現に努めます。

行動方針

- 環境に関する法規制を遵守します。
- リデュース・リユース・リサイクルに積極的に取り組み、処分量の最小限化と省資源化を推進します。
- 環境配慮型事業を積極的に推進します。
- 化学物質の適正な使用と環境負荷の少ない代替製品購入に努めます。
- 限りある資源の効率的な活用に努めます。
- 環境経営方針達成のために目標を設定し、具体的な環境活動計画を策定し、その状況の定期的な評価と見直しを行い、全員参加で継続的な改善を行います。

2019年4月1日（改訂）

株式会社オークマ
代表取締役社長

大隈 賢一郎

Ⅲ. 環境経営目標

環境経営目標(中期2021～2023目標及び2022年度目標)

項目	評価 単位	2020年度 (基準値換算)	2021年度 目標	2022年度 目標	2023年度 目標
【1】 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	1,816,724	1,798,557	1,780,390	1,762,222
		基準	1%削減	2%削減	3%削減
【2】 廃棄物排出量の削減	ton	833	825	817	809
		基準	1%削減	2%削減	3%削減
【3】 水使用量の削減	m3	7836	7758	7680	7602
		基準	1%削減	2%削減	3%削減
【4】 化学物質使用量削減	kg		❖ 化学物質含有量の少ない代替品への変更を積極的に進めていく		
【5】 グリーン購入	品目		❖ 発注時の代替品を常に検討する	❖ 発注時には代替品を常に検討する	❖ 発注先を複数にして検討品目の幅を広げる
【6】 自らが生産・販売・提供する製品及びサービス			❖ 再生資源を多用できる設計開発 ❖ 地域への貢献活動推進	❖ 再生資源を多用できる設計開発を進める ❖ 地域への貢献活動推進	❖ 設計時の資材構成を常に見直す ❖ 地域貢献活動の継続

※九州電力CO2調整後排出係数(2014年度実績)=0.598kg-CO2/kWh

作成日: 2022年4月1日
代表取締役社長 大隈 賢一郎

IV. 環境経営計画①

1. 二酸化炭素排出量の削減

【1】電力使用量削減	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
デマンド管理と日々の実績確認及び掲示	○	○	○
新設備導入と作業計画精度アップによる残業削減	○	○	○
空調機器の定期点検と最適温度管理	○	○	○
エアー配管ループ化によるコンプレッサー稼働軽減	○	○	○
エアー漏れ点検で無駄な運転を抑制	○	○	○

【2】化石燃料使用量削減	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
社用車の使用状況の共有化	○	○	○
アイドリングストップの徹底	○	○	○
フォークリフトごとの走行ルートを守る	○	○	○
気温に応じた暖房器具の使用ルール	○	○	○

IV. 環境経営計画②

2. 廃棄物の排出量削減

【1】不良品削減	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
品質改善活動継続 ※ 部門ごとの改善活動にて取り組む	○	○	○

【2】端材排出量削減	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
最適カット寸法で端材の削減	○	○	○
芯材構成の見直しで端材削減	○	○	○
リターンシート活用による梱包材削減	○	○	
端材回収業者の活用で焼却削減	○	○	○
産廃処理内容の見直しで削減案を抽出検討する	○	○	○

IV. 環境経営計画③

3. 水使用量の削減

【1】使用量を抑制する	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
スプリンクラー作動時間を気温に応じて変動させる	○	○	○
節水の呼び掛けを継続する	○	○	○
月々の使用量を監視して漏水などを早期発見	○	○	○

4. 化学物質使用量削減

【1】適正管理と代替品検討	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
新商品の情報が常に入ってくるように仕組化	○	○	
購入量の管理と変動の推移を監視する	○	○	
新規取扱商品のSDS入手により含有物管理	○	○	

IV. 環境経営計画④

5. グリーン購入

【1】購入比率向上	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
購入比率の管理	○	○	○
購入先を比較検討しながら発注する	○	○	○
新規発注品がある場合は数点を比較検討する	○	○	○

6. 自らが生産・販売・提供する製品及びサービス

【1】再生資材積極活用 【2】地域貢献	本社 朝倉工場	甘木工場	宝珠山工場
環境に配慮した資材を常に意識する	○	○	○
会社周辺の定期的な清掃活動の継続	○	○	○
体験入学の随時受入れを実施	○	○	○
地元小学校への図書券寄贈	○	○	○

V. 環境経営計画の実施内容①

【二酸化炭素排出量の削減】

□ デマンド管理(集中管理して設定値オーバーを防止し電力削減)

第1工場



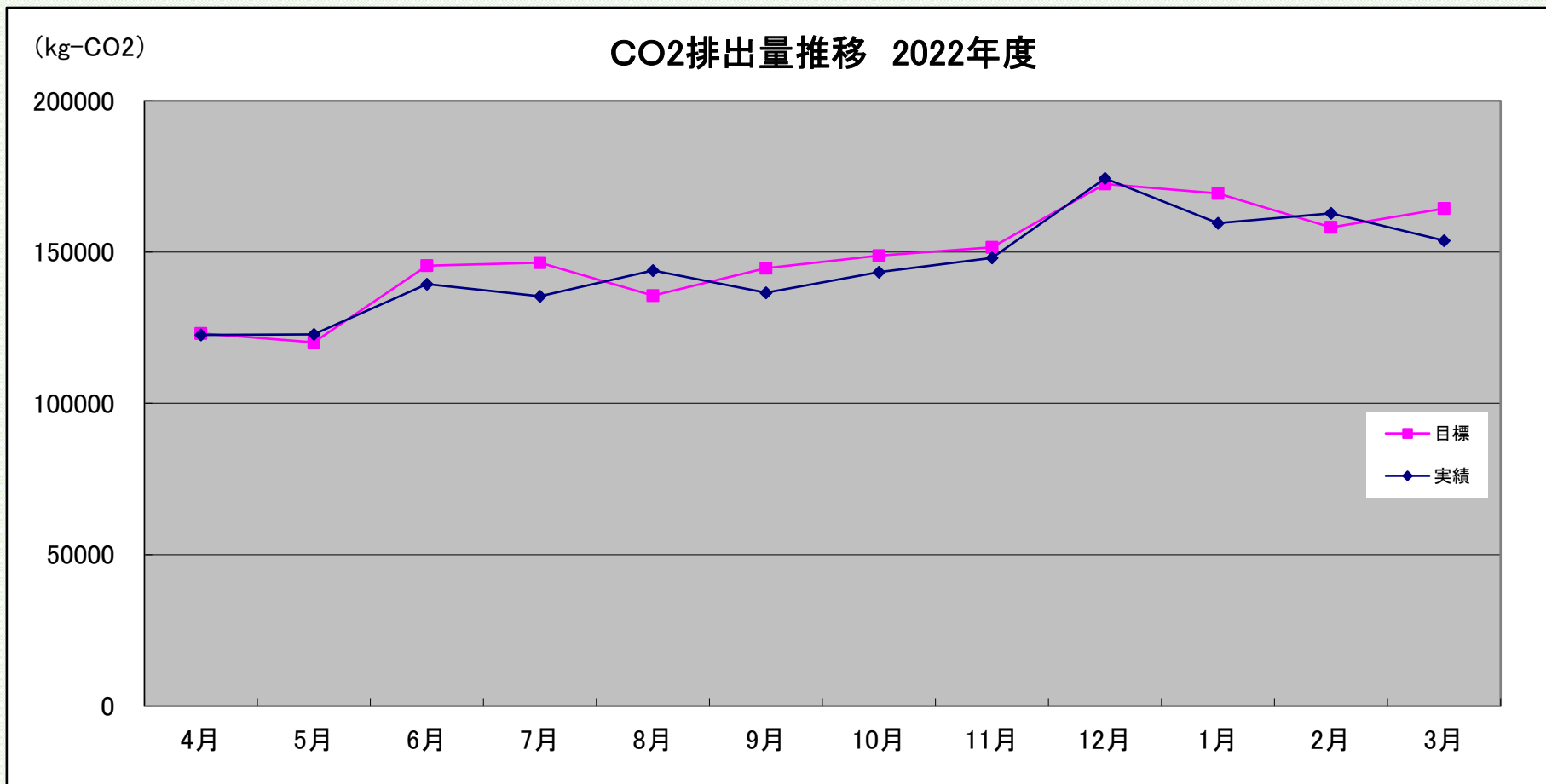
第2工場



□ フォークリフトのアクセル開度を抑制して化石燃料の使用量削減



CO2排出量結果

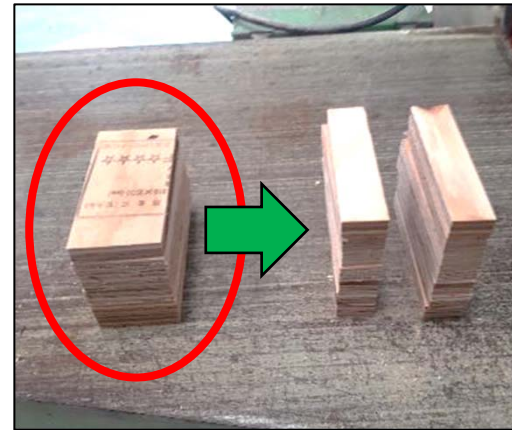
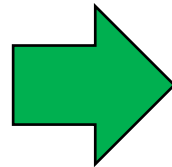


項目	単位	目標値	実績値	達成率
CO2排出量	kg-CO2	1,780,390	1,742,541	102%

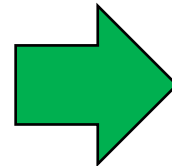
V. 環境経営計画の実施内容②

【廃棄物排出量削減】

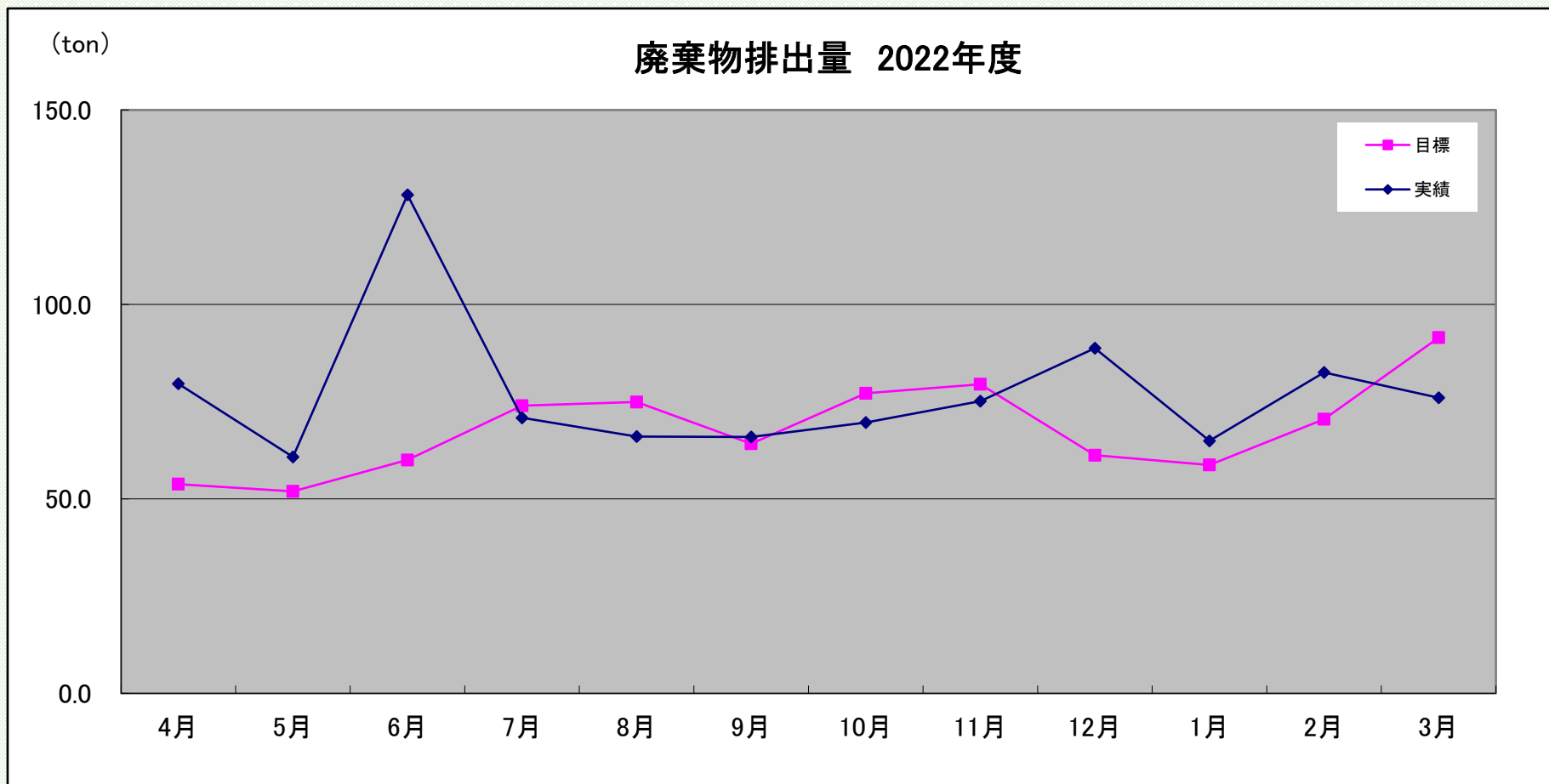
□重ね切りして出る端材を分割して別の部材の補助材へ転用



□使用中の部材と新規入荷品を区別できる棚を作製して先入れ先出しを実施し廃棄削減



廃棄物排出量結果



項目	単位	目標値	実績値	達成率
廃棄物	ton	817	928	88%

V. 環境経営計画の実施内容③

【水使用量の削減】

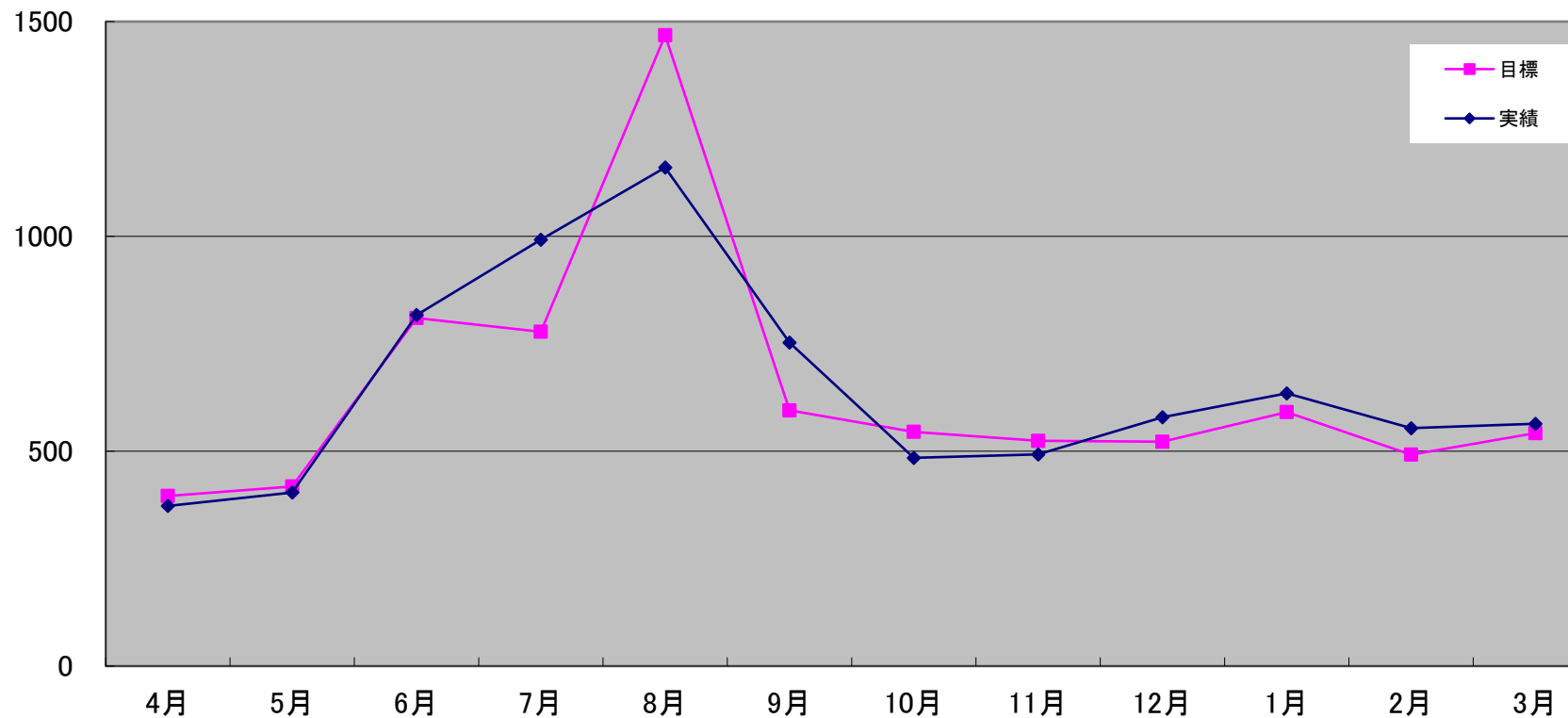
□ スプリンクラーのバルブ位置を明確にして操作忘れなどを防止



水使用量結果

(m³)

水使用量推移 2022年度



項目	単位	目標値	実績値	達成率
水使用量	m ³	7,680	7,805	98%

V. 環境経営計画の実施内容④

【化学物質使用量削減】

□各工場ともに使用量を継続調査して代替品検討

品名	使用量	単位
浜二 TXシンナーNo.13 16L	208	L
T溶剤 16L	176	L
アルテコ プロ用瞬間接着剤 713DP 20g	0.2	kg
コニシボンド HB-10 4kg	40	kg
ビニデラックス300 (指) WW色 4kg	40	kg
ユータックA オークマ作業場色 15kg	135	kg
シンコーボンド VP-571 20kg	160	kg
ピーアイボンドPI-2300 20kg	160	kg
浜二 TXシンナーNo.12 16L	128	L
浜二 TXシンナーNo.14 16L	128	L
ユータックA L72-60H 15kg	105	kg
Uコートサンジィング TXF-800 A 16kg	96	kg

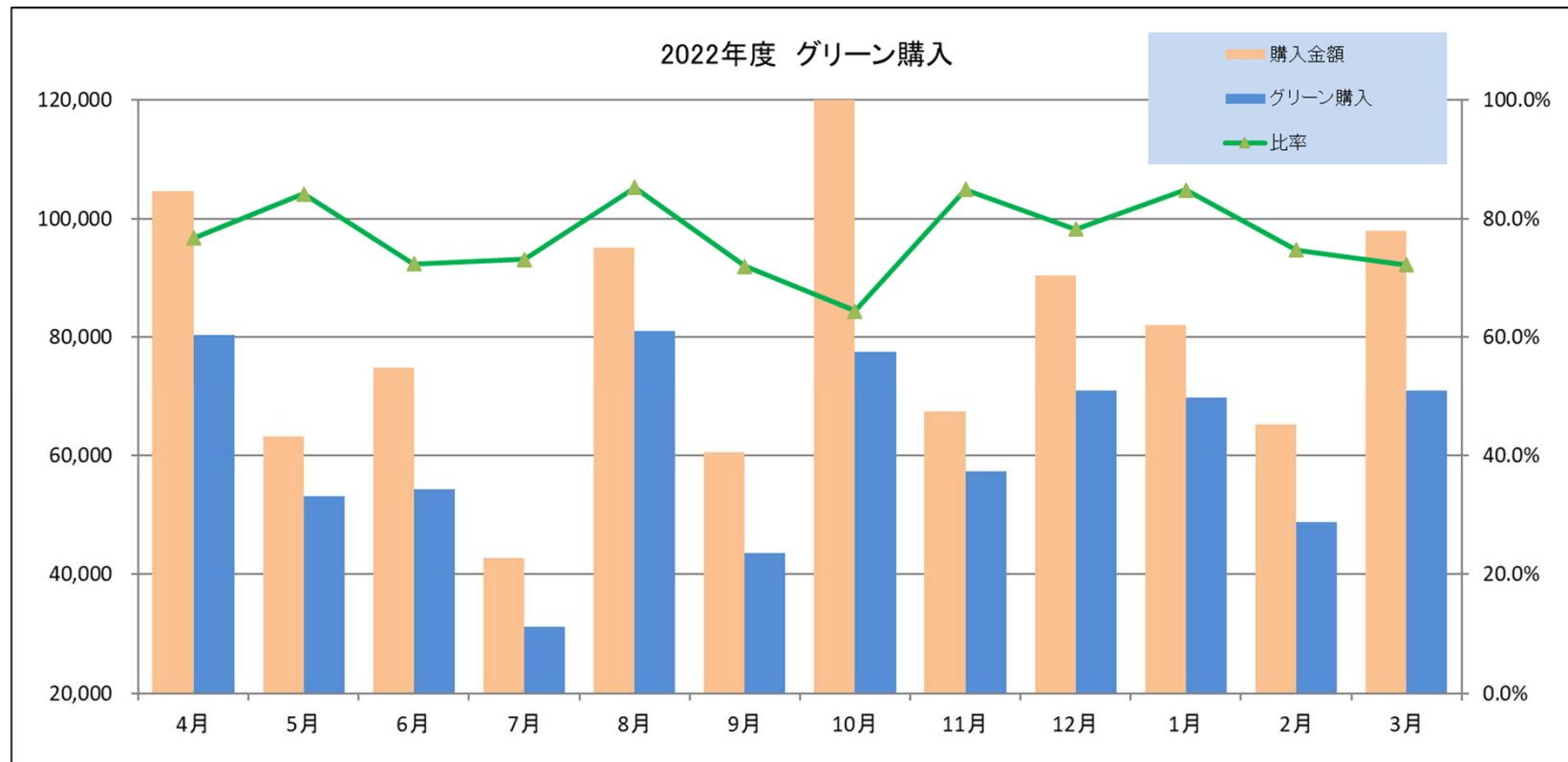
※2022年4月～2023年3月までの使用量から抜粋

V. 環境経営計画の実施内容⑤

【グリーン購入】

□ 代替品検討だけでなく発注先も一部変更したので比率アップ

※購入品に占めるグリーン商品の割合が80%近くになった



V. 環境経営計画の実施内容⑥

【地域貢献活動】

□工場周辺の農道の草刈りや側溝の清掃を実施

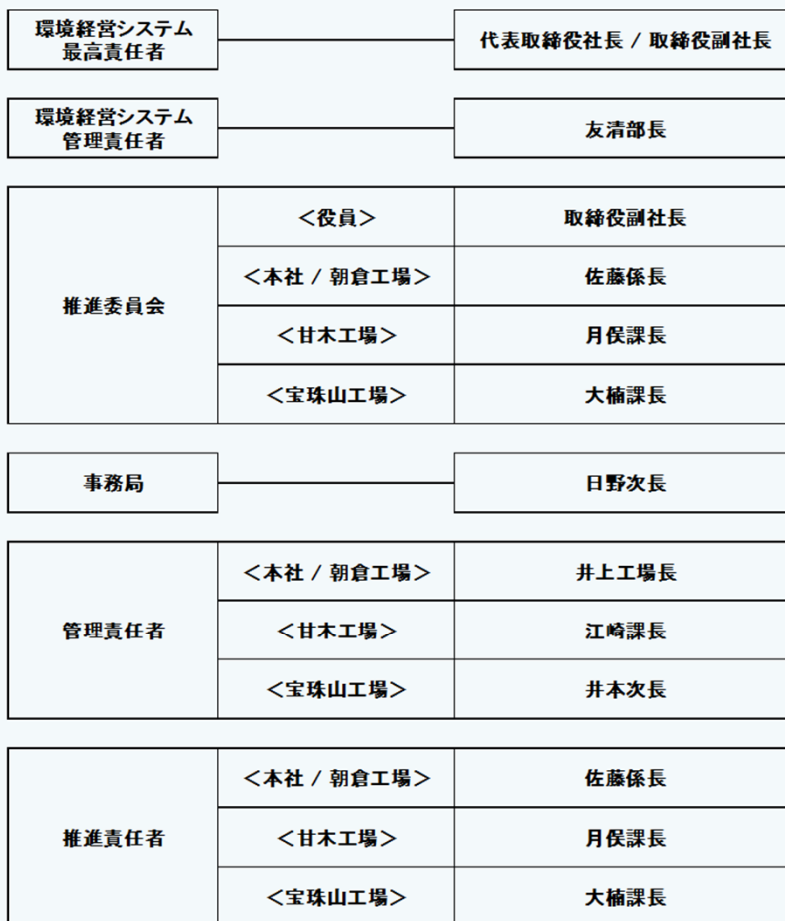


VI. 環境経営計画の実施体制

EA21実施体制 2022年度

2022/4/1改訂

<体制>



<役割>

<環境経営システム最高責任者>

- (1) 環境経営システム管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。当該責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。
- (2) 環境経営システムの構築・運用・維持に必要な経営諸資源(人材・資金・機器設備・技術技能を含む)を準備する。
- (3) 環境経営に関する基本理念・長期戦略・基本方針を制定し、基本的な環境目標を設定する。
- (4) 環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、方針・目標をはじめ、システム全体の見直しを行い、必要であれば改訂を指示する。

<環境経営システム管理責任者>

- (1) 環境経営に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために、環境経営に関する委員会組織を運営する。
- (2) 環境経営システムの構築と運用を円滑に行い、最高責任者に見直しのための情報として、その構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。

<EA21推進委員会>

- (1) 3ヶ月に1回開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実施状況を審議する。

<EA21事務局>

- (1) EA21文書及び記録類の作成・維持・管理。

<管理責任者>

- (1) 自己の管理範囲内における管理責任者として、全員参画による環境経営システムの運用及び管理の責務を負い、部署内の必要な人材育成、パフォーマンスの向上を図る。

<推進責任者>

- (1) 自己の管理範囲内における環境推進責任者として、全員参画による環境経営システムの運用及び管理の責務を負い、部署内の担当者の選任・必要な教育訓練、パフォーマンスの向上を図る。

Ⅶ. 環境経営目標に対する実績

2020～2022年度 環境負荷実績

当社の過去3年間の環境負荷実績は以下の通りです。

		2020年度			2021年度			2022年度			
		目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	
二酸化炭素排出量	電力使用量 単位：kW	本社・朝倉工場	1,102,850	1,151,929	95.7%	1,267,123	1,202,517	105.4%	1,254,326	1,265,251	99.1%
		甘木工場	684,683	743,293	92.1%	817,624	696,754	117.3%	809,366	705,418	114.7%
		宝珠山工場	560,472	521,989	107.4%	574,190	631,012	91.0%	568,391	646,507	87.9%
		合計	2,348,005	2,417,211	97.1%	2,658,937	2,530,283	105.1%	2,632,083	2,617,176	100.6%
	化石燃料 単位：ℓ	本社・朝倉工場	38,646	47,862	80.7%	52,649	47,457	110.9%	52,118	40,699	128.1%
		甘木工場	10,198	6,725	151.6%	7,398	6,181	119.7%	7,324	8,922	82.1%
		宝珠山工場	16,504	21,747	75.9%	23,922	19,403	123.3%	23,680	21,995	107.7%
		合計	65,348	76,334	85.6%	83,969	73,041	115.0%	83,122	71,616	116.1%
	合計（単位：kg-CO ₂ ）		1,568,407	1,635,052	95.9%	1,798,557	1,694,055	106.2%	1,780,390	1,742,541	102.2%
	廃棄物排出量	単位：ton	本社・朝倉工場	358	312	114.4%	344	329	104.5%	340	333
甘木工場			340	302	112.4%	333	365	91.1%	329	363	90.7%
宝珠山工場			132	136	97.5%	149	63	237.0%	148	232	63.6%
合計（単位：ton）		830	750	110.5%	825	757	109.0%	817	928	88.0%	
水使用量	単位：m ³	本社・朝倉工場	4,260	4,044	105.3%	4,447	4,204	105.8%	4,402	4,235	103.9%
		甘木工場	4,039	2,881	140.2%	3,170	3,467	91.4%	3,138	3,381	92.8%
		宝珠山工場	61	128	47.7%	141	119	118.5%	140	189	73.9%
	合計（単位：m ³ ）		8,360	7,053	118.5%	7,758	7,790	99.6%	7,680	7,805	98.4%

※ 年度表示は4月から翌年3月迄の1年間を表します。

※ 2015年度よりCO₂換算係数の変更（調整後排出係数=0.598kg-CO₂/kWh 九州電力2014年度実績）

※ 2020年度目標値は前中期計画の目標値です。

※ 2021年度からの中期目標は、増産計画に合わせ2020年度実績値の+11%を基準値として毎年1%削減で策定。

■ 化学物質使用量削減

- 購入量及び使用量を調査し、含有量が少ない商品の提案を受けて代替を検討した。

■ グリーン購入

- 発注時には代替となる商品がないか常に注意を払った。

■ 自らが生産・販売・提供する製品及びサービス

- 再生資源を少しでも多く使用できるような設計開発を心掛けた。
- 新型コロナウイルス感染症による職場体験の受入れはできなかったが、地元学校や図書館への図書券寄贈は継続。

Ⅶ. 環境経営計画の取組結果とその評価、並びに 次年度の環境経営目標及び計画①

1. 二酸化炭素排出量の削減

◆ 排出量削減 … 評価 ○

- 期初の計画以上に生産量が増えているが、電力の使用量は計画の範囲内に納まっているので、作業時間の管理面などが向上したと思われる。
- 化石燃料の使用量については、社用車の計画的な運行管理やフォークリフトのアクセル踏み込み量抑制などを行い目標を達成している。
- 今後も生産計画を綿密に立てて、無駄な設備稼働などを減らせるように取り組む。

2. 廃棄物排出量の削減

◆ 排出量削減 … 評価 ×

- 端材の引取り業者選定から実施まで進められた部分は良かったと思われる。
- 生産量に対する廃棄物の割合は減ってきたが、それ以上に生産が増えたので排出量増加となった。
- 廃棄物の再生利用を更に検討して実施していかなければ削減目標を達成することはできない。

Ⅶ. 環境経営計画の取組結果とその評価、並びに 次年度の環境経営目標及び計画②

3. 水使用量の削減

◆ 使用量削減 … 評価 ▲

- 前年同様、コロナ禍の関係で手洗いなど水使用量は増加傾向である。
- 工場屋根へのスプリンクラー散水を始める時期に、配管の破れなどによる漏水が無いかの点検と修理を事前に実施し使用量増加を抑制した。
- 作業時間の増加と共に比例して増加する使用量の抑制策を検討しなければいけない。

4. 化学物質使用量削減

◆ 適正使用 … 評価 ○

- 既存の化学物質含有製品の使用は減少傾向にあるので、引き続き適正使用に努める。
- 化学物質のリスクアセスメントは継続して実施していかなければいけない。
- 新規製品が立ち上がる際には、どのような資材が必要なのか確認して、化学物質を含有しないものか含有量の少ないものを選定するようにした。

Ⅶ. 環境経営計画の取組結果とその評価、並びに 次年度の環境経営目標及び計画③

5. グリーン購入

◆ 購入比率の維持 …… 評価 ○

- 購買先を増やし比較検討の幅を広げた効果が、比率アップという成果に繋がっている。
- 更に購入比率を上げるためにも、色々なところに視点を向けて情報収集に努める。

6. 自らが生産・販売・提供する製品及びサービス

◆ 再生資材の積極採用 …… 評価 △

- 再資源化事業も進みつつあるが、拡販にまでは至らず足踏み状態である。
- 社外からの廃棄材を加工して、製品の基幹部材に利用する商品開発が進んできた。

◆ 地域への貢献活動 …… 評価 ○

- 地元小学校や図書館への図書券寄贈を継続実施中。
- 工場周辺の定期的な清掃の継続と、夏場には周辺農道などの草刈りを実施。

VII. 環境経営計画の取組結果とその評価、並びに 次年度の環境経営目標及び計画④

7. 次年度の目標

環境経営目標(中期2021～2023目標及び2023年度目標)					
項目	評価 単位	2020年度 (基準値換算)	2021年度 目標	2022年度 目標	2023年度 目標
【1】 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	1,816,724	1,798,557	1,780,390	1,762,222
		基準	1%削減	2%削減	3%削減
【2】 廃棄物排出量の削減	ton	833	825	817	809
		基準	1%削減	2%削減	3%削減
【3】 水使用量の削減	m3	7836	7758	7680	7602
		基準	1%削減	2%削減	3%削減
【4】 化学物質使用量削減	kg		❖ 化学物質含有量の少ない代替品への変更を積極的に進めていく		
【5】 グリーン購入	品目		❖ 発注時の代替品を常に検討する	❖ 発注時には代替品を常に検討する	❖ 発注先を複数にして検討品目の幅を広げる
【6】 自らが生産・販売・提供する製品及びサービス			❖ 再生資源を多用できる設計開発 ❖ 地域への貢献活動推進	❖ 再生資源を多用できる設計開発を進める ❖ 地域への貢献活動推進	❖ 設計時の資材構成を常に見直す ❖ 地域貢献活動の継続

※九州電力CO2調整後排出係数(2014年度実績) = 0.598kg-CO2/kWh

作成日: 2023年4月1日
代表取締役社長 大隈 賢一郎

VIII. 環境関連法規等の遵守状況

対象となる環境関連法令と遵守状況
株式会社オークマ 2022年度

環境関連法規	適用内容		適用工場			遵守状況
			朝倉	甘木	宝珠山	
大気汚染防止法	ボイラー施設	測定義務	○	—	—	○
		報告義務	○	—	—	○
ダイオキシン類	焼却炉	測定義務	○	○	○	○
対策特別措置法		報告義務	○	○	○	○
廃棄物処理法	作業廃棄物の保管基準		○	○	○	○
	管理票の交付、写しの保管		○	○	○	○
	管理票の交付等の状況報告		○	○	○	○
化管法 (PRTR法)	指定化学物質の排出量等の把握及び届出		○	○	○	○
労働安全衛生法	有機溶剤	作業環境測定	○	○	—	○
		リスクアセスメント	○	○	—	○
		健康診断	○	○	○	○
消防法	危険物貯蔵所	届出義務	○	○	○	○
フロン排出抑制法	簡易点検	保存義務	○	○	○	○
浄化槽法	浄化槽	点検	—	○	○	○

【違反・訴訟等】

上表の法規制について確認した結果、全ての適用法令を遵守しており、関係機関等からの違法の指摘も無く、訴訟等もありません。

Ⅸ. 全体評価と見直し①

代表者による全体評価と見直し及び指示

■環境経営方針

環境経営マネジメントシステムは有効に機能している。

感染症への対応は、原則社員個人の裁量に任せる方向で進めていくが、最低限の推奨事項（感染時のマスク着用など）は引き続き推奨してもらいたい。ESG経営やSBT活動に向けた取組みに具体性（計画・目標）を持たせた方が良いのではないか。EA21推進活動年数だけが坦々と経過しているだけでは、到底2030年までに2018年度比でCO2の30%削減は達成できないように思える。

■実施体制

昨年同様、現時点で実施体制を修正・変更する必要はないと思われる。

ただ、時代の変化に取り残されないように活動のスピードアップを進めていくべきである。

推進メンバーも刷新されたと聞いており、より積極的にスピードを持って環境社会に順応できる体制を構築してってもらいたい。

Ⅸ. 全体評価と見直し②

代表者による全体評価と見直し及び指示

■環境経営目標及び計画

経営と環境活動は以前から言われている通り一体化したものである。

生産増＝環境負荷増に繋がることは理解できるが、ただ単に環境負荷を増やすのではなく、いかに負荷率を抑えるかの具体的対策を生産計画の段階で検討してもらいたい。

個別の環境負荷実績を確認する中で、廃棄物削減実績だけが目標に対し非常に乖離しているように思われる。生産量が増えたから廃棄物も増えましたと処理するのではなく、期の途中においても廃棄物の転用やリサイクル、バイオマス化など視点を変えた削減策を実施して欲しい。

その活動は、EA21削減目標以上のCO2排出削減に繋がると確信しています。